

取材先	NPO法人おれんじの会		
企画名	難病者アート展		
備考	世界希少・難病性疾患の日 (RDD Rare Disease Day 2019)		
取材日	2019年2月27日(日) 天候[晴れ] [13:30~15:30]	取材地	にししんギャラリー

レポート

「NPO法人おれんじの会」は特発性大腿骨頭壊死症患者とその家族に対して、医療福祉情報の提供、交流の場の提供に関する事業を行い、難病患者を生活者として包含する社会の形成に寄与することを目的にしている団体です。

毎年2月の末日は「世界希少・難病性疾患の日」(RDD)、より良い診断や治療による希少・難病性疾患の患者さんの生活の質の向上を目指し、スウェーデンで2008年から始まった活動です。日本でも趣旨に賛同し、2010年より2月最終日にイベントを開催しています。

RDDに伴い、「NPO法人おれんじの会」主催のアート展が2月22日から28日まで開催されました。アートのジャンルは問わず、参加資格は難病患者または障害者の方とご家族の自主参加で今回で4回目。市内外からアート約120点が出展されていました。

コンピューターグラフィックの似顔絵は、顎とわずかに動く指先で描いたとは思えないほどユニークで目に飛びこんできました。また、テーマ“命”の画用紙いっぱいの作品は、大胆でそれぞれの作者の感性を感じました。会代表の渡邊利絵氏は4コマ漫画で健常者では気が付かない日常の不便さを上手に表現されていました。例えば、雨がりに傘を手を持って前を歩いている方の傘は後方の車椅子の方にとってはとても危険なことなど、そうか！と痛感。難病患者、障がい者のことを理解し、もっと思いやりのある人・街になればどんなによいでしょうか。

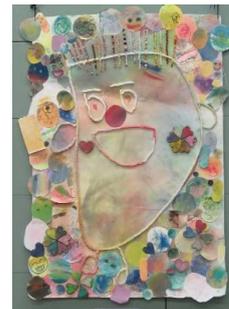
状況写真



▲来館者と懇談するメンバーやボランティア



▲「わかば」テーマ “命”



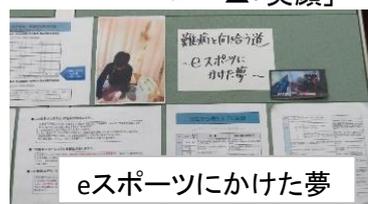
▲「笑顔」



▲市内在住の方の作品



▲ 4コマ漫画



eスポーツにかけた夢



田川若菜



▲コンピューターグラフィックの似顔絵